郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト
小学校の部 ポスターセッション
ふるさと探究大賞

天童市立 津山小学校

津山のホタルを守り隊

山口 亮　桑原 歩未　芳賀 瑠　山口 晴　大類 渚
近藤 和華　森谷 琉生　佐藤 哲平　遠藤 凛　滝口 柊花

津山のホタルを守ろう

1）テーマについて

津山地区では、夏になるといろいろな場所でホタルが見られます。昨年度、6年生がホタルの調査を行ったので，今年度はそのテーマを引き継ぎ、更に深めていきたいと考えました。また、3年時に見つけたジャガラモガラ*のウスカワマイマイがヒメボタルのえさで、ジャガラモガラにはヒメボタルがいることを知りました。そこで、津山地区にいるホタルについて調べ、津山のホタルを大切にしていこうと話し合いました。津山地区を流れる倉津川、古瀬川、貫津川の水質調査をしながら、ホタルが飛ぶ津山地区の環境を考えることになりました。

2）テーマに基づく活動について

ジャガラモガラ探検でウスカワマイマイを見つけました。後にこれが、ヒメボタルのえさであることが判明し、津山地区にはヒメボタルがいることが確認されました。

地区にホタルの情報を募るアンケートを取り、地域の方の力も借りてホタルの状況を調査しました。ジャガラモガラではウスカワマイマイを採集し、ヒメボタルの幼虫探しも行いました。その後、倉津川水質検査への参加やホタルの観察を継続的に行いました。夏にはジャガラモガラでウスカワマイマイ・ヒメボタルを調査し、地図作りやホタルの歌作りに挑戦しました。10月には「湯の上学習発表会」で津山地区の3種類のホタルと倉津川の水質の悪化について発表し、環境保全を訴えました。

3）これからの活動に向けて

ジャガラモガラでウスカワマイマイを発見したことで，ジャガラモガラにヒメボタルがいることが確認されました。津山地区で見られるヒメボタルは希少種で認知度が低いため、これを広く周知するとともに、保護することで今後地域おこしの一つになればと考えています。

＊ジャガラモガラ：天童市東部の雨呼山（あまよばりやま）にあるくぼ地の名称

審査員／堀川敬子氏

小学校の部トップバッターで会場に緊張感が漂う中、創意工夫してテンポよく発表してくれました。内容も興味深く、珍しい「ヒメボタル」の存在を地域において発見し、環境保全のみならず地域おこしの一助にしようという姿に感銘しました。

郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト
高等学校の部
優秀賞

山形県立 村山産業高等学校

株式会社 いも煮国（農業部バイオテクノロジー班）

笠井 健弘　遠藤 翔琉　矢作 舞初　石山 未羽　田宮 拓実　渋谷 菜捺子

郷土の素晴らしさに気付く→山形は独立できる!? ～いも煮国 建国への道～

1）テーマについて

山形県の郷土料理「芋煮」。その材料のほとんどが県内で完全に揃わないという現状を知りました。「芋煮」の完全県内産を目指し、主要食材である里芋の苗生産から栽培、加工品開発、販売・流通に関する取組みを行いました。

2）テーマに基づく活動について

県内では、「山形県産里芋」の観光施設における需要は年間を通じて高いと考えられました。そこで、8月上旬に収穫するサトイモの超促成栽培法を開発し、付加価値の高い農業方式を提案しようと考えました。

次に消費拡大を目指し、道の駅むらやまと協力しサトイモを用いた加工食品の開発と販売、流通に取り組みました。コンセプトとパッケージデザインを生徒が考案し、村山市の材料をふんだんに用いた<いも煮レトルト「いも煮国」>の販売や、お客様が手軽にいも煮を味わえるように「いも煮コロッケ」も発売。その後、カレーと合わせた「いも煮コロッケカレー」も発売されました。本プロジェクトで考案し、本校で製造して、販売している「里芋ぷりんタルト」は丁寧な調理を行うことで、里芋独特の風味を活かすことに成功しました。

3）これからの活動に向けて

里芋の苗生産から栽培、加工品開発について取り組んできました。これには、多様な要素を含んでおり、今後さらなる検討の必要があると考えています。

郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト
高等学校の部
優秀賞

山形県立 新庄神室産業高等学校

課題研究（食品）伝承豆チーム

菅 慎吾　佐藤 一希　中鉢 一樹

伝承豆を知ろう ～地域の豆の活用～

1）テーマについて

現在の中高生は高カロリーの食品を好む傾向にあり、健康を考えた低カロリーの食品は注目されないことが多いと捉えています。そこで、最上伝承野菜の大豆を使用し、低カロリーでも美味しい食品を作ること、地域と連携し最上伝承野菜について知ってもらうこと、そして普及を目的とした研究を行うことにしました。

2）テーマに基づく活動について

最上地域は最上伝承野菜として３０品目を認定しています。昨年度の課題研究では、食品チームで最上伝承野菜の一つである「金持ち豆」の研究を行いました。本年も伝承豆に注目し、その魅力を広く周知するため、研究を引き継ぎ、伝承豆の「風味」を生かした食品開発を目指すことになりました。品種ごとの風味はもちろんのこと、低カロリーでも美味しい食品を目指し「豆乳アイスクリーム」「おからパンケーキ」「ハンバーグ」などの試作を行い、アンケートを行いました。その結果、伝承豆を通じて地域への関心や知識の向上に繋げることができました。

また、昨年度は、小学校に出前授業に行き、金持ち豆の豆腐作り体験や豆乳アイスのアンケート等を実施し、その結果、小学校への周知もできたと考えられます。

3）これからの活動に向けて

最上伝承野菜を多くの人に知ってもらうため、地域や生産者との連携をさらに密にしていく必要があると感じました。高校生が商品開発を行い、新たな魅力を発信できるような研究を今後も展開していきたいと考えています。

郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト
高等学校の部
優秀賞

山形県立 庄内総合高等学校

第３学年

髙橋 丞　鈴木 絢　久保田 萌

3年次 地域課題解決型キャリア学習「ふるさと探究」

1）テーマについて

多くの地方が抱えている課題「人口減少」「少子高齢化」「商店街・繁華街の衰退」について庄内町をモデルに地域課題への解決策を考え学習の成果物として町長への提案書を作成しました。

2）テーマに基づく活動について

総合的な学習の時間を使い、町役場職員から庄内町の行政課題についての講義（「移住・定住」、「元気な高齢者を増やすには」、「中心市街地の活性化」）を受け、校外調査を行いました。「移住・定住」についてのグループは、庄内町で地域おこし協力隊として活動されている方に取材。「元気な高齢者を増やすには」を選択したグループは、介護予防事業施設　拠り所「しゃんしゃん」にて取材。そして「中心市街地の活性化」について取材したグループは、新産業創造館クラッセ、余目ホテル、プライドテーラー秋葉に出向き、スタッフの方との意見交換をしました。

その後、各グループの討論を経て、提案書を作成し、「ふるさと探究」学習を実践してきました。実践にあたって、庄内町役場からご協力いただいたことで、町内の施設、商店等への連絡調整についてもスムーズに

行うことができました。

3）これからの活動に向けて

「ふるさと探究」学習の続きとして、３年生一人一人が地域の課題を自ら見つけ研究テーマとして取り組み、その学習成果を全校生や保護者、外部の方に発表していきます。

郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト
中学校の部
優秀賞

山辺町立 作谷沢中学校

チーム作谷沢

樋口 愛里　渡邉 怜人　樋口 海音　佐藤 暸
加藤 美樹　川瀬 茉子　吉田 遥　渡邉 千尋
佐藤 忍　武田 尚才　吉田 萌和翔

作谷沢の産業

1）テーマについて

「地域を理解し、つながりを深め、貢献する」を目的に、産業という観点から地域の学習素材を発見し、人々との交流を通して、ふるさとを愛する気持ちを高め、地域の一員として貢献できることを考えました。

2）テーマに基づく活動について

地域と関わる内容を「ふるさと学習」と設定し、小中併設校としての利点を生かしながら、小中連携を意識した系統的な学習活動を行っています。

地域の特徴的な産業を調査し「りんどう・そば・わさび栽培」の３点に絞り込み、その将来性について考えました。それぞれの産物について生産者からの聞き取り調査を行い、発表内容をまとめ、他のグループと比較することで更に、研究のブラッシュアップを行いました。

今回の研究を通じ、登下校中の見慣れた風景の中にある疑問に気づき、改めて考えるきっかけになりました。具体的には、学習の中で、「作谷沢は湧き水の多い地域で、水に恵まれている事に加え、わさび自体の栽培や収穫、輸送のしやすさが高齢者の多い本地区に適していること」に気づくことができました。

3）これからの活動に向けて

小中合同の活動としての行事も大切にしながら、学校を支援して下さる地域に貢献できるような学習を今後も進めていきます。産業の基盤になっている作谷沢の「湧水」に対して、これまで以上に関心をもっていきます。

郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト
中学校の部
優秀賞

上山市立 宮川中学校

第３学年

黒田 頼雅　佐藤 大地　井上 沙織　木村 百花

黒柿の学習机～干し柿の名産地よりPart2～

1）テーマについて

平成２８年度、宮川地区の農家から提供していただいた銘木「黒柿」を使い、クラスの生徒全員で学習机を製作しました。全員が力を合わせ、地域の素材を使い「学校の宝物になるようなすばらしい作品をつくろう」という強い想いを込めて製作しました。

2）テーマに基づく活動について

上山市宮川地区は昔から干し柿作りが盛んだったことに伴い、「黒柿」も多く生育されていることに生徒自身が気づきました。正倉院にも納められている貴重な材料なので、少しの無駄も出ないように気を配り、製作にあたりました。他の木に比べると格段に硬く、ほぞ穴を開けたり、板を切ったりする作業がとても大変でした。ほぞ組で脚や天板を固定しましたが、昔ながらの伝統技法はとても手間のかかるものでした。そのことから昔の大工さんの苦労などを感じることができました。その結果、先輩に続いて昨年度も「第17回 全国中学生創造ものづくり教育フェア　生徒作品コンクール部門　技術分野Ⅱ部門」で「林野庁長官賞」を受賞することができました。今、先輩の「黒柿の椅子」と私たちの「黒柿の学習机」は宮川中学校の昇降口ホールに展示され、美しい輝きを放っています。

来校するお客さん達からも「すばらしい」という声を頂きます。これからも「宮川中の宝物」としていつまでも大事にしていきたいと思います。

3）これからの活動に向けて

平成 29 年秋に、２年生生徒による「黒柿」を使った製作を行い、コンクールに出品しました。

郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト
中学校の部
優秀賞

舟形町立 舟形中学校

第１学年

伊藤 優翔　海藤 優心　小野 絢音　岸 朱音
森 花音　庄司 敦宥　沼沢 琉斗　狩野 晴斗
黒坂 悠馬　齊藤 吏玖　沼澤 利玖

わたしたちの国宝“縄文の女神”

1）テーマについて

舟形町が誇る国宝「縄文の女神」の価値や魅力を再発見し、町内外に発信する活動を通じて、郷土愛を醸成するとともに、郷土の活性化と地域振興に貢献することを目的としました。

2）テーマに基づく活動について

郷土で発掘され国宝に指定された土偶「縄文の女神」に注目した探究活動に取り組むことで、改めて土偶の価値や魅力を実感しながら、ある疑問にたどり着きました。それは、「海外でも展示され、注目を集める国宝であるのに、その価値や魅力が、町民や県民に十分に認知されていない。」という事実でした。そこで国宝「縄文の女神」について、深く学び広く発信する活動に取り組むことが、郷土の発展にも寄与するのではという思いに至りました。

まず、講師をお呼びした「縄文の女神」についての学習を皮切りに出土の経緯や現在の管理状況を調査したり、「縄文ランタンつくり」のワークショップを開催したりしました。また、魅力発信のため、観光物産協会へオリジナルＴシャツや「縄文の女神」をイメージしたスイーツのレシピグッズ等の提案を行っていくことを計画しました。そして、それらをまとめた内容を町民の方々へプレゼンテーションを行い、「縄

文の女神」の里帰りを訴えました。

3）これからの活動に向けて

現在山形県立博物館にて管理されている「縄文の女神」を郷土で展示できるよう努力し、それを基にして町おこしの役に立ちたいと考えています。

郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト 小学校の部 ポスターセッション 優秀賞

天童市立 津山小学校

ジャガラモガラ探検隊

山口 亮　桑原 歩未　芳賀 瑠　山口 晴
大類 渚　近藤 和華　森谷 琉生　佐藤 哲平
遠藤 凛　滝口 柊花

ジャガラモガラ風穴の秘密

1）テーマについて

地域の中に根付いていながら，まだまだ解明されていないことが多いジャガラモガラを調査し、秘密を探り、保護しながら、その魅力を広く伝えていきたいと考えました。

2）テーマに基づく活動について

ジャガラモガラの名前の由来や、地形を調べることで、津山地区の住民のジャガラモガラへの畏敬の念に気づくことができました。龍神がいるとされる雨呼山は、姥捨て伝説のある山として，地区の信仰を集めています。ジャガラモガラまでの道にはたくさんの神社や寺の跡も確認できました。郷土芸能の龍神太鼓も、ジャガラモガラの伝説と結びついていることを改めて理解することができました。年間を通してジャガラモガラを訪ね、風穴の数の調査や温度を計測、線香の煙を使った空気の流れの実験、植物群の調査などを行いました。

市内が大雨の際も、なぜかジャガラモガラには水たまりもできず，土も湿っていないことを体験しました。東日本大震災後に急激に風穴の温度が下がったことを知り、地下の万年氷の存在を考えたり、風穴同士の関係を考えたりしながら、風穴から地層へと興味を広げました。調べれば調べるほど不思議なジャガラモガラの風穴を守っていかなければという気持ちも高まりました。

3）これからの活動に向けて

小学校卒業後も地域住民としてジャガラモガラの保全に関わり続けたいと話しています。東日本大震災の後の変化を考えると、今できる調査を継続的にしていきたいと考えています。

郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト 小学校の部 ポスターセッション 優秀賞

東根市立 東根中部小学校

第６学年1組

飯野 要　太田 健仁　國本 和大　國領 美海　門間 美澪

助け愛 地域に役立て!私たちの「挑戦」

1）テーマについて

歴史遺産を通して “ひと・もの・こと” と触れ合い、友達や地域の方と一緒に協力して課題を解決していくなかで、自分の考えを広げたり深めたりできるようなテーマにしました。

2）テーマに基づく活動について

テーマを決めた後、地域のためにできることを一人一人考えたり、保護者にアンケートを依頼したりしました。その結果、普光寺の鐘に落書きがあることや、表示の全くない大塚古墳があることなどを知りました。東根市には他にも多くの歴史遺産があり、それぞれに課題があることに気付きました。そこで、取り組むことを決めるプレゼン大会・討論会を行い、与次郎神社の歴史や物語を広く周知する事に決まりました。まずは実態を詳しく知るため、神社の氏子総代に話を伺うと、与次郎祭りへもっと子ども達に来てほしいという願いがあると知りました。次に、物語の舞台になった六田で麩屋を営む方に話を伺うと、１０月に羽州街道交流会東根大会があり、そこで与次郎物語を紹介して欲しいとのことでした。そこで、手分けをして、ポスター班、チラシ班、そうじ班、劇班に分かれて活動を行い、当日は多くの参加者にご覧いただきました。

3）これからの活動に向けて

祭りや羽州街道交流会とのかかわりでは、イベントの手伝いで終わるのではなく、今後も与次郎神社や与次郎物語を残していくためにはどうしたらよいかを自分たちで考えるきっかけにしたいと考えています。

郷土Yamagata ふるさと探究コンテスト 小学校の部 ポスターセッション 優秀賞

天童市立 天童南部小学校

チーム発信

髙橋 輝吏　菱沼 希々花　濱田 健太郎　星 真央　大場 大夢

天童のよさ発信

1）テーマについて

「維新軍楽」をよく理解したい、また天童に伝わる素晴らしいものは他にどんな物があるのかを調べ、それを発信していきたいと考え、総合学習で取り組みました。

2）テーマに基づく活動について

まず、「維新軍楽」について、同じ興味を持つ者同士でチームを組んで調査し、発表会を行いました。

戊辰戦争での官軍についた天童織田藩と旧幕府側の庄内藩の戦い、その後官軍についていた天童織田藩が奥羽列藩同盟に入るまでの過程を理解し、同じ奥羽列藩同盟の会津の戊辰戦争についても興味を持ちました。調査をもとに、修学旅行先で、パンフレットを活用した天童の魅力発信の計画を立てました。ALT の先生の力を借りながら英語バージョンも作りました。天童市以外の方や外国の方に制作したパンフレットを通じて天童の魅力を紹介し、アンケートを書いていただくことになりました。まず、天童のイオンモールでアンケートを行い、結果を検証しました。そこで、アンケートを書いていただくより、QR コードで回答していただく方が効率的と考え実行することとなりました。

修学旅行先（会津若松・日光東照宮、日光江戸村）では、パンフレットを配布し、天童の魅力を発信してきました。その結果、30 通ほどの回答を得ることができました。

3）これからの活動に向けて

「維新軍楽」「天童の良さ」というキーワードから始まった学習で学んだことを、南部小祭りなどで発表していきたいと考えています。

高等学校の部 総評

渡部 泰山 審査員

郷土料理「芋煮」の栽培、加工、消費拡大などのプロジェクトは栽培法の研究、「いも煮コロッケ」など、実に知恵と工夫を凝らした実験精神に溢れていました。「伝承豆を知ろう」は、地域の伝承野菜に関する貴重な研究であり、商品開発、小学生への出前授業など、その魅力を丁寧に伝えていました。少子化、高齢化、商店街・繁華街の衰退などの地域課題に真摯に向き合い、地域社会と積極的にかかわり学ぶ「ふるさと探究」も提案書作成までこぎつけた取組みは、希望を灯す実践的学びでした。いずれの発表も、学び方やものの考え方を身につけるという、主体的・対話的で深い学びとして優れた学習プロジェクトでした。

中学校の部 総評

沼野 慈 審査員

各中学校の活動は、その地域ならではの探究テーマを据えて学びを深める中で、地域の価値を知ることで誇りが芽生え、情報発信へと繋がる道筋が見える学習になりました。課題の設定やメンバー相互の意見調整等の経験を通して成長が感じられ、郷土再発見と共に「地域社会での自分」という主体性も育まれていると実感しました。

小学校の部 総評

堀川 敬子 審査員

小学生の部は初めての試みとしてポスターセッションを行うということで、正直どのくらいの発表内容になるか全く想像できませんでした。けれども実際には、どの小学校もその完成度は高く、審査員として甲乙つけ難いと感じました。そしてまた、より多くの方々に見ていただきたいとも思いました。小学生の潜在能力の高さと先生方の指導力に脱帽いたしました。